

令和5年9月

NO.63

公立学校共済組合東北中央病院 地域医療連携室・入退院支援室

TEL 0120-703-995 FAX 0120-168-990 代表 TEL 023-623-5111

医療連携につきましては、日頃よりご協力いただき、誠にありがとうございます。

▷第28回和GO懇話会

令和5年6月29日（木）大手門パルズで、「第28回 和GO懇話会」を開催しました。お忙しい中、関係医療機関の先生方にご参集いただき、有意義に開催されましたことに厚く御礼申し上げます。

特別講演

『ここが変わった！高尿酸血症治療 改訂ガイドライン第3版（追補版も含めて） ～病型分類を意識した治療について～』

演者：山形大学大学院医学系研究科 公衆衛生学・衛生学講座
教授 今田 恒夫 先生（写真左）



座長：第二呼吸器科部長 加藤 修一 医師（写真右）

高尿酸血症の病態や診断、改定ガイドラインと高尿酸血症の治療についてご講演をいただきました。尿酸とは、核酸の主要な構成分子の最終代謝産物のことをいい、人間には結晶分解酵素が存在しないため、尿酸が溜まることによって血中尿酸高値となります。高尿酸血症の定義は、血清尿酸値が7.0mg/dlを超えた時とされています。そして、基準値を超えると結晶化が始まり、血管障害や腎障害が生じる恐れがあります。それにより、心筋梗塞や脳卒中など生活習慣病の発病リスクが高まりますが、尿酸値が低い場合でも臓器障害のリスクがあるため、尿酸値は3～7mg/dl未満が良いとされています。

高尿酸血症患者は、成人男性の約30%に見られるなど近年増加しており、痛風患者は100万人を超えとも言われています。高尿酸血症は、痛風や慢性腎不全の発症・進行に関与しており、死亡の高リスク指標となっています。治療を行うことで5年、10年先の腎臓を守ることに繋がりますが、国際学会によるとアメリカとヨーロッパにおける治療対象は、痛風を発症した患者に限られるとのこと。それは医療保険の適応有無が関連しており、日本は検査値6mg/dl以下を目標として治療をしていることからわかるように、高尿酸血症に対する治療に積極的であるといえるようです。

尿酸についてはまだまだ研究段階の分野でもあるため、どこまで治療すべきか未知な部分があります。また、今後さらに患者の増加が予想されるため、治療目標の達成に向けて、適切な薬剤の使用など積極的な対応が求められるとお話をいただきました。

講演後の質疑では、尿酸値をどこまで下げるのが適切かといった質問や痛風発作時の高尿酸血症治療薬と他薬剤の実際の使用方法について、そもそもなぜ足の指が痛くなるのか、など参加された先生方からたくさんの質問があり、今田先生からは丁寧かつユーモアを交えたご回答をいただきました。このたびは、ご講演をいただきまして誠にありがとうございました。

今後も地域医療の発展のため、先生方の御要望をお聞きしながら尚一層の努力を重ねて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

